

行政視察報告書

令和5年 11月 15日

長浜市議会議員 中川 勇 様

長浜市議会議員 北川陽大



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和5年つなぐ長浜行政視察研修
2. 視察期間 令和5年11月13日(月)～11月14日(火)
3. 視察場所及び目的
 - ①長野県辰野町
トビチ商店街 トビチマーケットの取組について
 - ②千葉県多古町
若者世代の移住定住を推進する取組について
4. 調査内容感想等

・視察の目的

■長野県辰野町 全国的な少子高齢化と中心市街地におけるドーナツ化現象。
それに向けて、辰野町のトビチ商店街は「シャッターが大半しまっているが大丈夫。1時間かけても訪れたい魅力あるお店が数店でもあれば商店街は成り立つ。無理をせず若い世代も開店しやすい商店街。」をモットーに展開。実際に空きテナント率の改善につながっている。

■千葉県多古町 多古町で学習したい施策
多古de子育てプランの内容・待機児童ゼロ・第三子以降総額100万円支給の財源・また、その効果。

・ 視察内容

■長野県辰野町 辰野町のトビチ商店街の仕掛け人

赤羽さんと市役所の野澤さんの二人と事務所にて講義、またトビチ商店街の現地で視察

◎トビチマーケット (空きテナントを活用のしたマルシェ企画)

長野県の商工振興系の事業の委託をもらって採択され、初年度の2019年度80万円の委託費でマーケットを始めた。また、クラウドファンディング160万円を集め、あとは民間事業者、〇と編集者が会社の持ち出し60万円で開催。空き店舗、空きテナントを使っのマルシェのような形でマーケットのイベント開催。マーケットの出店料は1店舗500円とした。

イベントは地域の文化祭になりがちで、それでは魅力あるお店の増えるマーケットにはならず、関係人口は増えないと考えた。そこで、市内外関係なく出店してほしい方々に声をこちらからかけた。イベントに出店するだけの店舗には声をかけなかった。町内外関係なく地域での活動に興味がある方に声をかけた。

1時間商圈と呼ばれる辰野から1時間離れていても行きたいお店を集めることを心がけた。

また、空き店舗へのマーケットでの店舗貸し出しのお礼は現金ではなく。辰野町地域の商品券にしてしっかり地域にお金がおちるようにしている。

そして、2019年にマーケットに出した人が2021年にトビチ商店街として出店。出店までにはタイムラグが出る。出店するのに準備も必要なので。最低3年、通常5年は考えておいたほうがよい。

※毎年、トビチマーケットはやる必要を考えていない。出店をしてもらうキッカケとして考えているので、以下のトビチ商店街への店舗を増やす入り口としての企画。

◎トビチ商店街

約100件の商店街 現在21店舗が営業。そのうちトビチ商店街として12件がトビチ商店街としてトビチマーケットをきっかけに入居した。

約100件のうち現在30件は住宅化しているがそれが悪いとは思えない。地域に住んでいただいでるので、店は開けなくてもそれは消費者として歓迎するという考え。

・ 目的 10年後を作るためのビジョンを共有する。

商店を全部開けましょうという絶対無理な目標を抱えない。実現可能なことを行うを心がけている。

2019年 岡谷と辰野の商店街の空き家を使ってトビチマーケットを行った際に移住ツアーも同時に行った。トビチマーケットの参加者がそのまま移住ツアーにも参加した。町外の14の出店業者の内、6組が移住ツアーにも参加。マーケットの参加者から出店者が誕生していくことに繋がった。商店街を全部開けることが正義と唱えてしまうと、それは住んでくれる方に排除という暴力ととらえており、また、商店街の営業する方々ををひとつにまとめることは無理があると考えている。「みんなが自分の状況にあわせて無理のないように営業できる商店街にしよう。」をモットーに行っている。

シャッター商店街は悪いことばかりではなく、暗いために逆に営業で電気をつけている店舗が目立つことになる。営業している店舗が万が一閉めても、営業していたことで目立つ存在になっていたら次の借主もいるはずだと考えた。

行きたくなる面白いお店が一店舗でもあればよい。そのため、トビチ商店街には会費もない。会束もない。ただし商店街同市が、面白いお店を紹介しあう。また、トビチ商店街のHPを共有して使えるようになっている。トビチ商店街というのはあくまで商店街の通りをさすのではなく、お互いのコミュニティを指す。そのために、実際の商店街にいない山間部のお店も紹介している。

そこにお店がなくても、トビチ商店街に参画店舗ののLINEグループで情報を共有するだけ

例

A店「うち、明日からセールやろうかな。」

B店「じゃあ、うちも同じことやろうかな。」

C店「うちは今、忙しいから無理だな。」

D店「うちもやりたいからAとBに便乗するわ。」

全ては店舗を運営する人たちの自主性に任せている。

トビチ商店街には会費も会束もないが有料会員の場合は商店街の自分たちのお店のHPをそれぞれのお店が自分たちで編集もできる。

※無料会員のHPは固定ページのみ

有料会員のHPをそのまま自分のHPとして利用もできる。そのため自分のHPを作成する必要がない。

また、毎日店を営業する必要はない。すべて運営する側の都合にあわせている。

例

- ・会社勤めで週一日だけ営業する。
- ・メインは農業やってて、2日だけ店をやりたい。
- ・こだわりがあるから週に1～2日しか開けない。

ポイント

週5開けないとお店じゃないという考え方では、お店をやっていく人があつまらない。何もないよりは週に1～2日だけでも開けてくれたら、それだけでも無よりは大きなプラスになると考える。

◎さかさま不動産

家賃ありきではなく人ありきで不動産のオーナーが探せる。

例 家賃安くてもこの人に貸したい。と思える人を探す。

そのため、貸主と借主が家賃交渉できる。格安でも貸すことが出来るので、マッチングがしやすい。

※トビチ商店街をとりまとめる「〇と編集会」さかさま不動産の辰野支局をされている。しかし、辰野町の物件にはしばっていない。他の地域の物件も紹介することで辰野ファンを増やす。辰野町の空き家バンクと連携は組んでいる。辰野ファンを増やす目的があるので、議員や自治体も理解してくれた。

◎トビチ商店街の〇と編集社は不動産業として収益を上げている。

担当している空き家バンクはすべて条件が応相談。HPなどで公開しないようにしてテナント料の表記も出さないようにしている。オーナーは住む人によって家賃なども変更できるなど幅を持たせるため。状況次第で売買にもなることもある。

例 家族でないと借りれない 物販のみ飲食 NG 外国人以外がよい

小さなお子さんがいると厳しいなど 借りてくれる人によってすべて変えるため

ポイント②

◎単に人を増やすより、人数が少なくても能動的な人を増やす

何でもやってくれるという受動的な100人より、自分たちでやろうという能動的な1人の方が町のためにはなる。

◎指定管理や第三セクター以外の方法のスタート

- ・PFI法の活用。

官民連携の法律だが、これまでは100億円などの事業が多かった。

それがこれから内閣府としては1億円前後の事業でのマイクロコンセッションをすすめていくことをすすめることになった。

そこで、固定資産税と火災保険だけで、行政の使われない不良資産を民間に対して随意連携をして貸す。リノベーション費用などは民間持ち運営もすべて民間。

民間としても行政としても管理費用がいらなくなるメリットがある。

10年たった時点で、民間に譲渡か行政に返却か選べるようにしている。

◎辰野町の移住体験住宅(2023年よりスタート)

何千万もかけて建てて、借りるのは年に2人ほどなぜなら半年ほどお試し生活をされるため。これは費用対効果が薄い。

また、その後、空き家バンクの家に引っ越ししても空き家バンクの家のほうが古くてボロいことが多い。

現在は、古民家をリノベーションさせて移住体験住宅として使用してもらっている。また、リノベーションした住宅は、移住体験をされた方がそのまま買い取ってもよい。

※住宅リノベーションは行政。官民連携でつなげるのは民間の〇と編集社。

以上のことから、出店のキッカケを作っていること。出店のハードルを下げることに。常にそれらを意識して無理をしない。しかし一人でも多くの能動的な人が集まる商店街を展開することを意識している。これらの活動が内閣府から認められている。これらは長浜の商店街に生かせることばかりと考える。空きテナントの活用も商店街連盟や商工会に縛られず、若い世代が始めやすい環境を準備することが大切と感じる。

■千葉県多古町 役場内にて町長はじめ各担当局の方から研修

・第1子 第2子 出産祝い金10万円

第3子 祝い金100万円

・財源 地方交付税と成田空港の騒音など障害防止のための改善のための地方交付金の一部をあてている

・22歳まで医療費ゼロ 親御さんが多古町に住民票があれば大丈夫。
しかしながら実際は大学生はほとんど病院に行く機会がないので数字上でのインパクトがPRとして大きい。

ちなみに多古町には病床166床の町営の国保病院が存在している。

・待機児童ゼロ

※子育て施策を開始する前から待機児童ゼロであり、これは以前から継続的に取り組んできた効果。

・若い世帯の移住は効果は出ているがそれ以上に高齢者の自然減が増えており人口減少にはなっている。しかしながら、住みたい田舎ランキングで全国2位になるなど着実に浸透してきていると感じている。

・近隣の成田市などの周辺自治体からの転入が多い。

東京都支部よりもすぐ隣り町の成田市などからの転入が多い。また、成田空港の第三滑走路ができるので、そこに成田市と一体になって貨物ターミナルの予定があり、これが雇用を増大させる可能性もあり期待している。(企業名 オーストラリアのグッドマン)

・こども園 定員410人

保育園3つに幼稚園4つを統合して誕生。この、こども園に勤務していた方が担当課長として子育て施策を担当している。現場を知っている方の実情をわかったうえでのノウハウが必要だと考えている。

ちなみに幼稚園と保育園、跡地7か所はすべて民間活用している。また、これ以外の統合した小学校の跡地も民間への利活用がされている。小学校の跡地がグラウンド施設にしていって利用者にも好評を博している。

・保育のサポート (園児の給食費は無料)

保育量第二子半額 第三子無料

・おむつの持ち帰り無し

・病児保育所

こちらは多古町が建てて、病院に委託している。(小学6年生まで 一日6名まで) 千葉県内初の公立病院での病児保育。小学校6年生までが対象。

町の規模が小さいからこそ、俊敏に動いている部分が大きいとのこと。

また観光地ではなく財政規模も小さいので、人口減への危機感が非常に強い。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

トビチ商店街

現在、長浜市内の商店街の多くの店舗が後継者不足、売上不振によりシャッターを閉めた状態となっている。それは今後も増加が予想される。

その中で、外部からの経営希望者を受け入れやすく、展開しやすくする方法として非常に有効と考える。また、現在商店街のイベントが一過性の盛り上げのものが多く、イベントをきっかけにしてテナントの借主や移住者を作り上げることもつなげていかねばならない。これは本市の大きな課題にマッチする。地元、商店街や商工会とも連携する共有する必要性を感じます。

多古町の子育て施策

本市よりも人口規模が小さな自治体だからこそ出来ていることも多いが、その中でも見習うべき工夫は多い。また、こども園に集約したのちに使われなくなった7つの幼稚園や保育園が100%利活用されていることなど、子育て施策以外にも見習うべきことが多い。移住定住、若者人口増加のための財源などは本市では実現可能な部分と不可能な部分はあると思われるが、多古町に比べ交通網が発達している本市だと有利な面も多い。こども園の現場で働いていた方が管理職として施策制定を決めているなど、現場に近い人材の登用も非常に有効と考える。

